

平成28年度「全国学力・学習状況調査」を受けて…

年度初めに確認したいこと



～算数・数学科の学力向上に向けて!～

福島県教育庁義務教育課

去る4月21日(木)、福島県文化センターにおいて、「ふくしまからはじめよう。未来を拓く理数教育充実事業」『算数・数学科授業づくり講演会』を開催し、国立教育政策研究所教育課程研究センター学力調査官 小松信哉先生(福島県出身)より、「全国学力・学習状況調査問題の傾向と授業への生かし方」と題して講演をいただきました。当日は、150名以上の先生方の参加があり、算数・数学科の学力向上に対する先生方の強い意欲が感じられる講演会となりました。

算数・数学科の学力向上に向けて、年度初めに確認しておきたいことを講演から引用する形で以下にまとめましたので、各学校での取組にぜひ活用してください。

「全職員で、全国学力・学習状況調査問題を解いてみてください。」

本県では、解答用紙のコピーを全職員で採点・分析し、自校の課題解決に素早く取り組んでいる学校がたくさんあります。8月の調査結果を待たずに、PDCAサイクルをスタートさせるすばらしい取組です。

また、全職員で全国学力・学習状況調査を解いて、今問われている力や自校でつまずきやすい内容等をぜひ分析し、今後の取組に生かしていただきたいと思います。

「課題のある単元で授業研究を行ってみてはいかがでしょうか。」

授業研究をすることになると、子どもが盛り上がりそうなところや、授業者の考えで単元を選んでしまうことはありませんでしたか。これからは、学校や学級の課題や子どもをつまずきをとらえて、課題のある単元で授業研究を行ってみてはいかがでしょうか。

「低学年からの積み重ねが大切です。」

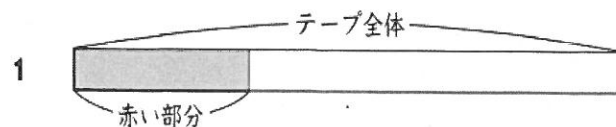
全国学力・学習状況調査は、一部の学年や教科だけががんばればよいというものではないことは、言うまでもありません。各学校や各中学校区における小学校1年生から中学校2年生まで積み上げてきた結果として現れるものです。

ご存じのとおり、今回は、小学校1年生や2年生の内容からも出題されています。

「算数A図の問題が、もしできていなかったら、割合の理解に大きな課題があるかもしれません。」

割合の理解については、これまでも課題がありました。この問題には、数値が示されていません。割合の意味をとらえているかどうかをシンプルに問う問題であり、確実にできてほしいところです。

割合の指導法につきましては、ぜひ「福島県算数・数学科指導事例集」(福島県教育庁義務教育課のHP参照)をご活用ください。



「算数B図(1)の問題では、先生の吹き出しに『そうですね。』という教師の言葉が入っています。」

『そうですね。』のひと言には、「子どもたちの言葉を受け止めてほしい」というメッセージが込められています。全国学力・学習状況調査の問題からは、今、求められている学力が示されているのはもちろん、授業改善の方向性も読み取ることができます。



先生

そうですね。

では、 $360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。説明してみましょう。

「数学A図、B図の問題から、場面を変えて問うという授業場面の設定が重要だと言えます。」

子ども自らが数値や図形、手順等を変えながら、「解決してみたい」と思えるような場面を意図的に設定していくことが、「発展的に考える力」を育む上で重要です。このことについては、小学校算数のB図、B図においても同様の問題が出題されており、授業改善の視点の一つにしてほしいと思います。

「全国学力・学習状況調査」における各設問の意図を、ご存じでしょうか？」

全国学力・学習状況調査問題から分かる「今、求められる学力」を知ることや自校の分析にあたっては、各設問の意図をとらえておくことが重要です。

この各設問の意図は、全国学力・学習状況調査「解説資料」や「報告書」で知ることができます。すでに、国立教育政策研究所では、Web上で「平成28年度全国学力・学習状況調査 解説資料」(国立教育政策研究所HP参照)を公開していますので活用してください。

なお、「解説資料」の冊子が学校に届くのは、5月末予定となっています。